

4月30日(金) 1年生を迎える会・ニコニコデー

総務委員会(児童会役員)主催の「1年生を迎える会」が行われました。1年生に早く学校生活に慣れてほしい、楽しく交流することで1から6年生みんなが北山小の仲間として仲良しになってほしい、といった総務委員の思いを、形にしてくれました。その後はペア学年でレクを楽しむ「ニコニコデー」でした。1年生と6年生はそのまま体育館に残って、赤白対抗のゲームに取り組みました。手をつなぎ指示を出す6年生の優しい笑顔と、6年生と一緒に活動する楽しさを感じている1年生の笑顔。笑顔あふれる幸せな時間でした。

自覚があるのかどうかは分かりませんが、1年生と一緒にゲームをすることで、6年生は多くのことを1年生に学ばせてくれています。例えば、終了の合図を守ってゲームを終えることで、不正をせずルールを守って正々堂々と勝負することの大切さを教えています。また、レクの楽しみ方や盛り上げ方なども、一緒に活動しながら具体的な姿で教えてくれていました。さすがです。



きたちゃんインフォメーション



◆野球用品の寄贈について◆

株式会社オネストさんから下記野球用品のご寄贈がありました。市内の小学校にご寄贈いただきました。(オネストさんは、大府市に会社があり、塗装工事や防水工事等を請け負い、学校の工事をお願いすることもある会社です。大谷翔平グローブが三つだけあってもなあ…。の学校のつぶやきを、どこかでお聞きになってのご寄贈かと思われます。)大谷翔平グローブと合わせてオネストグローブも大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

【寄贈品】右利き用Sサイズグローブ3、Mサイズグローブ3 左利き用Mサイズグローブ1
少年軟式用金属バット1 軟式野球ボール12 ティボール12



Tsubuyaitter@kitayama-e. 4-1『市初任者研修』

「教師である前に一人の大人として後ろ姿を示せる人になる」という講話が印象に残っています。子どもたちと生活する中で、自分が何気なく放った一言をよく覚えてくれていたり、いろんな事を質問してくれたりと「自分を見られている」と強く感じます。日頃の言葉遣いや態度、何気ないところに表れる価値観が、子どもたちに胸を張って見せられるものだろうかと自問自答し続けなければならぬと思いました。まずは笑顔で、大人として恥ずかしくない姿を示していきます。

ケロけるん

私は本好きである。目の届くところには本を積んでおきたくなるし、ストレスが溜まってくる、本を買いたくない。と言っても読書が好きなのわけではない▼梶井基次郎の『檸檬』をご存知だろうか。あまり本を読まない学生時代の私が、主人公の心情に強く共感した記憶がある物語だ。ちやうど私にとっての本は、心を終始抑えつけていた不吉な塊が、それを手にした瞬間からいくらか弛み、主人公を幸福な気持ちにしたレモンなのだ▼主人公は丸善に立ち寄り、以前のように画集を眺めるが、憂鬱な気持ちが晴れなかった。そこで、積み上げた画集の上に(爆弾に見立てた)レモンを置いて店を出る。木っ端微塵になる丸善を想像する愉快さ。それも共感の一つだった▼私の『檸檬』に対する共感は、友人には理解されなかったが、分かるという希少な人物がいた。それがまだ同級生に過ぎなかった妻だった。